

U. N. F. A. CONTACT MANUAL

プロネックのエッジ

U.N.F.A. コンタクト・マニュアル

対地球外生物接触要項



NEW WORLD COMPUTING, INC.
THE GREAT ESCAPE



VING

プラネット☆エッジ™

U.N.F.A.コンタクト・マニュアル

対地球外生物接触要項

U.N.F.A. CONTACT MANUAL INDEX

経過報告……	2
任務要項……	6
任務指令……	11
クルー略歴……	13
探査船の構造……	17
物資及び武器……	19
物資及び武器(補足)……	23
宇宙航行要項……	26
ET接触要項……	28
調査報告……	32

VING

経過報告

この報告は、惑星地球が見かけ上の消滅を引き起こした出来事を簡略に説明するために、U.N.F.A. (United Nations First Approach: 国連第一アプローチ) 中央委員会によって行なわれたものである。この経過報告は、「ブラネッツ・エッジ」というコードネームがつけられた派遣隊のクルーに利用されるために作成された。

2045年 5月9日

探査船ユニティー発射予定の5時間前、イオン推進力装置に関する飛行前レベル2診断で、運航場の強さが0.976%欠乏していることが明らかになり、秒読みが一時中断される。17時間後、探査船の10人のクルーたちは下船命令を受ける。アメリカと新ソビエトの共同による火星派遣計画は、問題点を検討するため、240時間停止される。

2045年 5月10日

電子光差型自動宇宙探査システムが未確認物体を発見。スカイサーブコンプ (宇宙探査マスターコンピュータ) は、この物体を「comet 2045Jun22: 72: 08: 66 π 」と命名する。

2045年 5月15日

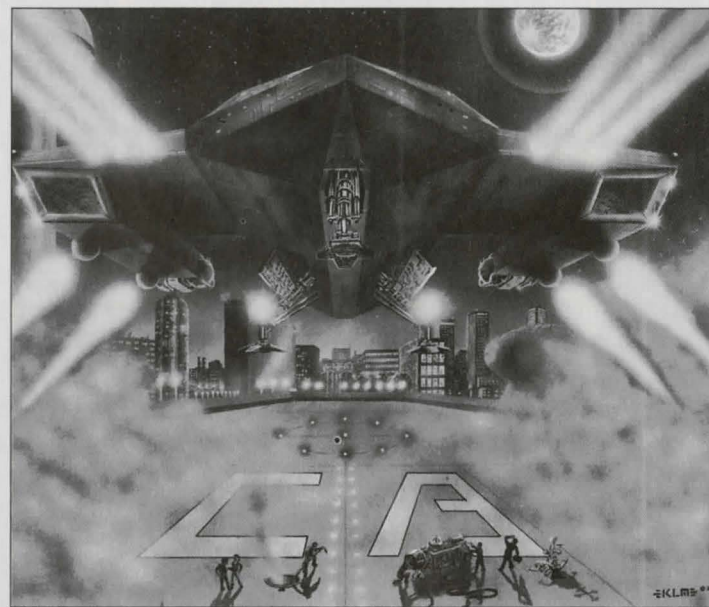
物体を再調査し、距離及び進路を暫定的に設定する。物体の移動軌跡は、ほぼ双曲線を描いている。スカイサーブコンプは、明らかに太陽系外のものであるこの物体を「ESO 2045-At」と命名し直す。

2045年 5月16日

数多くの異常な観測結果により、スカイサーブコンプは監視官に対し「ESO 2045-At」への注意を喚起する。金属光沢のような太陽光反射率を示めず異常な明るさにもかかわらず、彗星の周囲に存在するはずの星雲状ガスは探知されていない。ドップラー計測により、それが太陽系以外から飛来したことが確認される。軌跡観測結果は、予測される計算軌道と異なっている。「ESO 2045-At」の軌跡は、かつて地球から送り出された、いかなる探査機や宇宙船の記録とも一致しない。

2045年 5月18日

U.N.F.A.司令部を含む世界各国の政府機関が、月の裏側からの連絡を受ける。ムーンベース (月面基地) の20m級光学望遠鏡がその物体にセットされる。政府関係者や学識経験者及び民間の専門家たちが、地球と月の2つの世界から電子会議で参加する緊急対策会議が召集される。



2045年 5月19日

ムーンベースから最初の画像が中継される。映像は不鮮明ではあったが、その物体が太陽系外から飛来した強力な宇宙船だという認識で一致した。

2045年 5月20日

物体は、いまや「ETS (Extra Terrastrial Ship: 地球外生物の宇宙船)」と呼ばれようになった。ETSとの接触を試みるべきか否か、そして、接触をはかる場合はどんなメッセージを送ればよいかで議論が白熱する。このような緊迫した状況のなか、U.N.F.A.は、火星探査隊の派遣を無期限に延期した。

2045年 5月24日

平和と友好を呼びかける国連の公式メッセージがあらゆる周波数帯で送信されるが、何の応答も得られない。より高精度のETS軌道解析の結果、現在の進路及び減速率から、ETSが6月23日前後に地球に接近することが判明する。

2045年 5月25日
～6月3日

交信のトーンはしだいに変わり始める。事前通告や許可なしに地球に接近することは敵対的行為とみなすという警告が、しだいに激しさを増しながら繰り返し送信される。

2045年6月4日
～6月15日

宇宙空間で使用可能なすべての武器システムが国連の統一指揮下におかれ、臨戦態勢が整えられる。国連は、先制攻撃を禁止する厳重な命令を発し、全加盟国に対し独自の軍事行動は実力阻止すると警告する。民衆の反応は、予想されたとおり混乱している。興奮が高まるにつれ、神の千年王国到来を唱える運動が、民衆デモンストレーションとして現れる。

2045年6月16日

U.N.F.A.事務局は、有能な宇宙飛行士の中からコンタクト部隊を召集する。ディーン、サカフチ、ナガタダツ、マルシヨバという4人の士官が選抜されスタンバイする。キャプテンには、ウェス・アラン・クラールが選ばれる。

2045年6月23日

ETSが地球に到達、軌道周回を始める。そして、地球から送信される平和と友好のメッセージを、猿まねのようにそのまま返送し始める。地球と月にある全主要基地がETS追跡によって得た遠隔測定データは、直ちにネットワークに入力され、軍や政府機関そして科学センターなどへ伝達される。

2045年6月23日
CL標準時 08:09

国連の警告を無視してウーチェン基地から高速軌道迎撃機が離陸する。先制攻撃の効果はなく、ETSの猿まね交信が冷やかに中断される。

2045年6月23日
CL標準時 11:19

ETSが2回の地球周回を終え、3周目にかかるとした時、観測装置が無線の激しい雑音に続いて、ETSが発した閃光を記録する。当初、ムーンベースの職員は、これをETSの再交信と考える。しかし、バチバチという雑音は、すぐさまホワイトノイズの圧倒するばかりの咆哮に変わり、電磁スペクトルの全バンドの全チャンネルに流れ込む。地球とのデータリンクが突然途絶える。と同時に、ほとんどの衛星遠隔測定データも受信不能になる。オペレータは軌道上の機器類が伝えてくる内容を信じようとしなない。月の前哨基地にいる監視員から報告がもれる。月にあるすべての通信チャンネルが、U.N.F.A.ムーンベース司令官による、惑星地球が消滅したという厳粛なる発表のために10分間占有される。

2045年6月24日

哀悼の日が宣言される。ETSは破壊されたが、相当程度の残骸が残っているという報告が監視員から入る。

2045年6月26日

地球の重力による拘束が消滅したことで、月が新しい軌道にのってどこかへ行ってしまいかも知れないという考えがすぐに浮かんでくる。観測と計算が直ちに行なわれる。科学者たちは、地球がまだそこに存在しているかのようなデータに当惑する。

2045年6月27日

ムーンベースのポーク司令官は、残されたすべての手掛かりに対する徹底的な論理解析を命じる。

2045年6月29日
CL標準時 21:00

かつて地球があった空間を移動している気象観測衛星が監視される。衛星からの遠隔測定データと画像は何の影響もなく戻ってくるが、その進路は、失われた地球の重力から影響を受けたかのように歪んでいる。

CL標準時 23:43

科学評議会は、地球が、まだその正確な性質が知られていない宇宙空間のねじれに閉じ込められているとの結論を出す。

2045年6月30日

ポーク司令官は、真実を知るために、ETSの残骸へ小型宇宙船を緊急派遣する。探査チームのキャプテン、ウェス・アラン・クラールは、放射能汚染により死亡。後任はまだ決められていない。

2045年7月3日

宇宙船とその内部の大規模な調査のため、さらに多くの人員がETSに送られる。エイリアンの製造物や情報の回収を含むいくつかの重要な発見がなされる。

2045年7月20日

ETS内部で発見されたエイリアンの「標準記号論理認識ユニット (S.S.C.L.U.)」は、最終的には、英語、ドイツ語そして日本語に対応したコード化が行なわれる。誤りをできるだけ避けながら、エイリアンの科学資料の翻訳が開始される。

2045年7月29日

U.N.F.A.が月の将来を話し合うため緊急会議を召集する。資格をもつ月の住民 (823人) が参加する。このままでは、月には生き延びられる資源が3年分しかないことが発表される。これに代わる計画が求められている。

任務要項

発信：ムーンベース司令官 メイソン・R・ポーク

内容：プラネッツ・エッジ作戦の目的

宛先：UNFA探査船ユリシーズ キャプテン及びクルー

記録：2045/08/14 0730 ZU

以下の資料は、ユリシーズのキャプテンとムーンベースのメイソン・ポーク司令官の間に交された交信記録「NLUN-ULY 2045.148」から作成されたことに注意されたい。ここにおさめられた情報は、すべて暗号化されずに、一般通信チャンネルで送信された。

—— 記述開始 ——

いい朝だね、キャプテン。いや、少なくとも、我々が近いうちに再びいい朝を迎えられるよう祈らせてくれたまえ。

今は、口頭で指令を伝えているが、これは記録されており、あとで参照できるように書きおこされる。また、君のために、記録は順番に並べられてハンドブックにも掲載される。

この数ヶ月の間に起こった事は、ムーンベースの誰もが、だいたい知っている。ETSが爆発して以来、我々はずっと二交代制で働いてきた。地球が消滅した時、私にはムーンベースの誰もが、半年も生きられないと絶望的な気持ちでいるように見えた。静かに自給自足すべきだという議論がどれほどなされてきたかわからない。しかし、地球に帰りたいたいと思っている人たちは、この意見には同意しなかった。それで我々は、今こうしているわけだ。

基地司令官としては、ショックで落ち込まないよう、みんなを忙しくさせておかなければならないと思った。モラルを維持しなければならなかったのだ。ここだけの話だが、私自身、我々が行っていることすべてが最終的には無意味だと確信した瞬間があったことを認めるよ。しかし、みんなに、まったく希望がないという苦しみを味あわせるつもりはない。

論理解析スタッフは、我々が取るべきあらゆる方策や選択について検討した。それによれば最大限の努力をすれば、向こう3年はなんとかやっていけるらしい。この情報に驚いている君が、モニタでよく見えるようだよ。今回の作戦には、それがきわどい生き残り作戦であるがために、1グラム単位の資源、1ワット単位の電力、そして一人ひとりの1時間単位の活動力までも注ぎ込まなければならないという厳しい現実がある。しかもその結果、ほんの

数日間命を伸ばす分以外は何も残らなかったという事態をむかえる可能性もあるのだ。

机に向かってこのことを熟慮していた時、電子秘書がグレゴリー・コールから報告が入ってきたことを知らせた。その報告を読んで、やるべきことが明確になってきた。知ってると思うが、彼は壊滅状態になったエイリアンの宇宙船を発見した。把握できた情報から、そこにいたエイリアンのクルーは溶けてしまったと言うほかない。

私が次に行なったのは、その宇宙船により多くの人間を送り込むことだった。私は、もしも地球という物体が宇宙のどこかに存在しているのなら……、たぶん、その「惑星」そして人類は無事にいるという気がする。そして、おそらく我々はその場所にたどり着くことができ、それを引き戻すことができるのではないか。そのための手掛かりとなる情報があるとすれば、ETSの内部以外にはないだろう。

ここで一番言いたいのは、今なお希望を棄てていない者が、我々の中にもいるということだ。そして、キャプテン、君こそがその希望の星になろうとしているのだ。

このところ、君たちは工場や宇宙船組立所の再構築を手助けしている。供給品が断たれた現在、その再構築をはじめ、「あの出来事」——そうだ我々はETSの悲劇をこう呼んでいる——以後行なわれているすべての活動は、我々の生き残りに関わっているのだ。

とはいえ、ここ4週間ほとんどの努力は、ETSから発見された文書や情報を解読し、それらが何を意味しているかを理解することに注ぎ込まれてきた。記録媒体が半揮発性のため、ETSのほとんどのデータは、「あの出来事」で消失したり、ぐちゃぐちゃになったが、利用可能なデータもいくつか残っていた。我々は、残っていたデータから、宇宙船発進地の文明に関する部分的な記述を合成することができた。これを見て、ある計画が思い浮かんだ。もしも、その計画が少々すてばちのように思えたなら許してくれたまえ、我々は絶望的な状況にいるのだから。私は、その計画が、我々すべての命を救い、さらに重要なことである、地球を取り戻す唯一の希望だと信じている。

キャプテン、4人のベストメンバーと共に銀河系宇宙へ向かってほしい。コンタクト部隊がこの任務にふさわしく、かれらの手助けがかけがえのないものだと思っている。あの「キャプテン・クラールの死」*)以来、この部隊は任務に没頭しており、前キャプテンの指揮下にあった時と同様に、君の命令にも迅速的確に従うだろう。

*) 電子秘書補足：キャプテン・クラークは、2045年6月30日放射能汚染により死亡。

知ってると思うが、我々には修理不能となった宇宙船のパーツが大量にある。君に、我々が保有している全てのスクラップ、利用可能な他の宇宙船、そして回収できたETSの部品などすべてを活用して、探査船を組み立ててもらいたいのだ。そうそう、ETSの残骸から、君のために正常な恒星間駆動装置（スタードライブ）を回収することができた。君たちには、翌週の20日、つまりスペースデーまでに飛び立ってほしい。

君らの命がかかっているのだから、探査船の最終仕様は任せることにした。よく機能している工場もあるし、パーツ工場のスタッフも、物理的に組み立て可能ならば、いかなる探査船でも供給してくれるだろう。現時点では、手元にあるパーツで組み立てるしかないのだが、回収したエイリアンの情報解読に努力を重ねている主任エンジニアのブリードウェル女史が、もしも、資源と完璧な仕様さえ入手すれば、奇跡とも思えるとても素晴らしい探査船ができると約束してくれている。

君の主要な任務は、むろん地球の復活を助けることにある。ETSには、地球消滅の原因となったと確信できる装置が存在する。いや、存在したと言うべきだろう。コールが送ってきた写真によれば、それは、溶けた塊になって床の鉄格子と融合してしまった。それがその装置だとわかった唯一の根拠は、S.S.C.L.U.が訳してくれた設計図だ。よく調べた結果、私たちはエイリアンが誰であれ、彼らが新しい駆動システムを利用した科学実験のまっただ中にあり、残念ながらこの実験が誤った方向に動き、不本意ながら地球を時空のある種の裂け目に押しやってしまったという結論に達した。

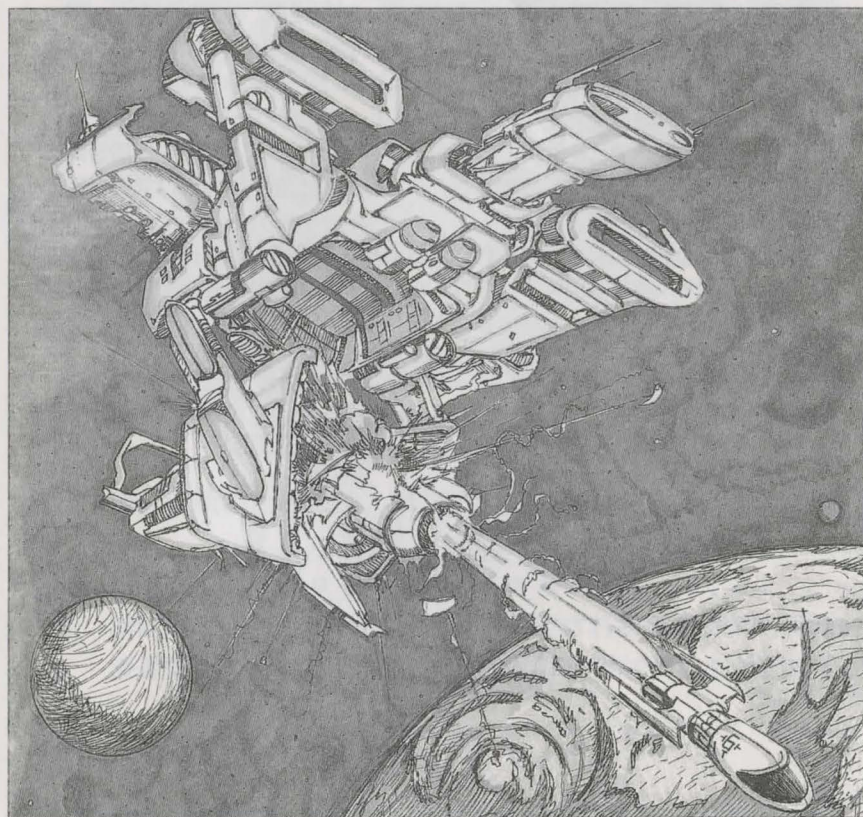
コンタクト部隊のナガタダツ大尉は、当初これをFTL（超光速）装置と考えた。がしかし、彼らは、このケンタウルスドライブの原理はもっと複雑なものだと結論をだした。最近の調査で、それがケンタウルスの近くからきたものだとわかったので、この駆動装置に「ケンタウルスドライブ」という愛称をつけたのだ。いずれにせよ、我々の唯一の希望は、ここ月の実験室で、あの不運な実験を再現することにある。そのためには、もっと多くの部品や情報が必要である。そして、それらが見つけれられるところは、宇宙の「どこか」なのだ。そう、「どこか」でしかないのだ。

キャプテン、君には銀河系宇宙に行ってもらい、任務をやり遂げてもらわなければならない。「ケンタウルスドライブ」を構成する部品を見つけてくれたまえ。どのようにして任務を遂行すればいいかということについて、我々ができる限られたアドバイスしかできない。友よ、君は少なからぬ場面を機転で切り抜けなければならないだろう。やれることを見つけ、できる最善の決定を下してほしい。もしも行き詰まった

ら、カンを動かせるしかない。

君たちのために、記録担当スタッフがETSから回収した情報と合わせてスターマップを編集した。気づくとは思わなかったが、これは128パーセク（1パーセクは3.26光年）というすぐ「近隣」のものだ。その地図には、ETSの活動システムデータベースが相互参照している恒星系だけを掲載した。もしも、どこかに近くに生物体が生きている星があるとすれば、ETSのクルーからのコンタクトをまだ受けていないということだろう。

君やクルーたちは、NASAやETSの飛行士と一緒にいるより、混沌とした世界にチャレンジする方が性に合っているだろう。君たちは、冒険家のように、戻って来るまでは私たちと交信しないで未知の世界で旅を続けなければならない。だからこそ、君たちの探査船を「ユリシーズ」と名づけたのだ。



この送信を終える前に君に言うておかなければならないことがある。我々は、
どういうわけか招かざる客となってしまったあのエイリアンを、好意的な種族
だったと結論づけた。がしかし、これから出かける世界の他の種族は、それほ
ど友好的ではないだろうと考えている。

エイリアンのデータバンクから回収した映像には、技術的未開状態としか呼ぶ
ことができないものも年代記として載っているようだ。私は今、宇宙戦闘が起
こっていることを否定できない映像を送信している。画像は、君のスクリーン
の右側にあらわれるはずだ。私がこんなことを持ち出したのは、これで、君達
が眼前に立ちただかる宇宙空間の危険性に気づくと思ったからだ。

君たちが、純真な子どもではないことは十分に承知している。しかし、見知ら
ぬ世界では、人は間違いなく世間知らずになってしまうということも十分承知
しておいてほしい。私がこんなことを言うのも、U.N.F.A.と行方不明の地球
の立場をはっきりさせるためだ。我々は平和的任務においては平和的な人間
だ。しかし、もしも君たちの命が不当に危険にさらされた場合には、任務達成
のために、いかなる武力も行使できる権限を与えておく。この作戦要項の写し
は、君のハンドブックに記載されることになっている。

君たちを派遣すべきかどうかについては、ずいぶん苦しみ睡眠時間も失った
よ。このかすかな希望に、すべての資源を捧げてしまうことで、3年間活動を
続けることは不可能になってしまった。まあ、なんとか1年ぐらいは生き延び
ることができるだろうが。

来週には、すべてが我々に任せられるようになるだろう。スペースデーの時点
で、我々は銀河系宇宙共同体の抜き差しならない一員となる。後戻りはできな
いのだ。君たちが飛び立つとき、我々も決して後戻りすることができない「不
可逆点 (Point of no return)」を踏み越えることになるのだ！

—— 記述終了 ——

U.N.F.A.探査船

ユリシーズ

キャプテン

出航地：ムーンベース（月 太陽系3/1）

作戦発動及び出航：2045年8月20日

----- 任務指令 -----

- 1 最重要任務——惑星地球及び人類を無事に取り戻す方法を
発見する。
- 2 最重要任務を遂行しつつ、「ケンタウルスドライブ」を完成
するために必要な物資・装置・機材・技術計画書などを確
保し、速やかにムーンベースに回収する。
- 3 恒星探査船の組立・供給・作動及び定期的な修理を監視す
る。
これらには、地球・地球外にかかわらず、あらゆる物資や
機器を使うことができる。
- 4 最重要任務を遂行するため、銀河系各地にある有用な文明
に対して平和的な接触を試みる。
- 5 自己防衛のためには、いつでも武力を行使することができ
る。
- 6 常に攻撃的であるとあらかじめ認定されたものに対しては、
接近が避けられない場合、先制攻撃を行なうことができる。

- 7 探査船とそのクルーの能力が拡大できる素材・物資・装置・部品などを確保し、ムーンベースに回収する。
- 8 最重要任務の達成に関連した技術情報データを入手し、速やかにムーンベースに報告する。
- 9 最重要任務の達成に関連した銀河系文明の政治的・文化的な情報データを入手し、速やかにムーンベースに報告する。
- 10 現状を常に評価し、最重要任務を遂行するために重要なデータや物資を確保した場合、さらに探査船に新機能を装備する必要のある場合は、速やかにムーンベースに帰還する。
- 11 いかなる時でも、下した命令の安全性を確保する。
- 12 探査船で惑星に着陸するといった危険を犯してはならない。惑星探査は、惑星地表に伝送される船外部隊により実行される。
- 13 キャプテンは、いかなる時でも持ち場を離れてはならない。すべての船外探査はクルーメンバーにより行なわれる。
- 14 船外探査に従事する全クルーメンバーは、軌道上の探査船との連絡を常に確保する。

----- 指令終了 -----

ムーンベース司令官 メイソン R ポーク
承認コード：alpha-436-HGST-9924-JM-6598



ディーン・ウィリアム ロバート

生年月日：2013年10月17日
 住所：アメリカ合衆国
 オクラホマ州タルサ
 年齢：31歳
 身長：184cm
 体重：93kg
 性別：男
 学歴：2036年 言語学修士/人類学修士
 (タルサ大学)
 2037年 異星人学修士
 (SETI財団)
 職務：UNFA 宇宙探索専門官
 担当任務：宇宙船操縦士
 探索チーム司令官
 宇宙航行通信

クルー略歴

認識コード：A76-BV4.3

承認官：スティード, ベン F.

以下の文章は、2044年5月24日に発行されたSETIジャーナルからの抜粋である。この記事は、後にCLUのカルチャーレビューの8月号で「不信の作戦」というタイトルで増補されて再掲載された。

SETI財団のウィリアム・ディーンは、模擬会談、模擬交渉、模擬災害などの10日間にもわたるきびしいセッションの後、世界危機外交連盟からゴールデン・ディプロマシー・スター賞を授与された。この連盟は毎年1回コンペを行ない、地政学的危機の最もすぐれた解決方法に対して賞を与えている。今年のコンペは、その特別なテーマのため、ディーンにはとりわけ興味深いものだった。

「連盟は今年、何か特殊な事象への挑戦を決めたようで、とても非現実的な状況を設定しました。」とディーンは説明する。「通常の中東危機に代わって、複数のエイリアンが地球上の鉱物採掘権をめぐるというシナリオを設定したのです。ほとんどの人は、エイリアンたちの論理は何かという視点から問題に取り組みました。しかし、私は、エイリアンたちはおそらく論理的なプロセスを経て作戦行動をとるわけではないだろうと思いました。他の人は、エイリアンたちが状況を解決するために、どのように振る舞うかを見い出さなければならなかったのです。」



サカフチ、オサイ リン

生年月日：2019年2月16日
 住所：日本国
 東京都豊島区
 年齢：26歳
 身長：165cm
 体重：59kg
 性別：女
 学歴：2037年 生物物理学修了
 (国立長崎大学)
 2041年 医学博士
 (エジンバラ大学)
 職務：UNFA 医療専門官
 担当任務：宇宙船医師
 宇宙船主任科学者

クルー略歴

認識コード：A76-BM7.8

承認官：スティード、ベン F.

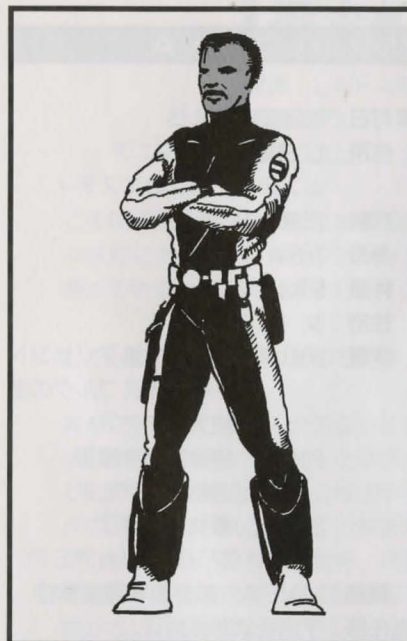
サカフチは、ここ数年その研究成果で世界的な注目を集めている。サカフチは、宇宙で遭遇するであろうあらゆる異文化を研究対象にすることのできる学者の第一候補としてあげられている。以下は、世界災害救助部隊当時の彼女について書いた、マーシャ・ウォルカー著「世界が待つあいだ」から抜粋したものである。

彼女が7歳だった時、父親はオサイを失ってしまったと思った。

タイで、地滑りさえ引き起こすような破壊的大型台風にあい、窓にテープを貼る、ドアに板を打ちつける、食料を貯蔵するといった台風対策の混乱のなかで、彼女を見失ってしまったのだ。渡り鳥が叩きつけられ、木々までが地面から抜け、停っていた車にまっさかさまになってぶつかった。

この恐ろしい嵐のなかで、父親は幸運にも路地にいる彼女を見つけた。台風で街全体が混乱のつぼに投げ込まれていたというのに、彼女は、医師である父親の仕事ぶりをまねて治療に取り組んでいたのだ。彼女は、細い一本の糸で、死の瀬戸際にいた人を救い看護していた。

オサイ・リン・サカフチは、人生を通じて数多くの自己犠牲的人命救助を行ってきた。しばしば自分の身を危険にさらしながら…。



ナガタダツ、ネルソン T.

生年月日：2009年9月23日
 住所：ニューグエロ国パバイシャンダ
 年齢：35歳
 身長：193cm
 体重：100kg
 性別：男
 学歴：2029年 統計数学/確率数学
 修了
 (レキク大学)
 2032年 材料工学修士
 (バツ大学)
 2038年 物理学博士
 (世界大学)
 職務：UNFA 宇宙工学担当
 担当任務：宇宙エンジニア
 エイリアン工学主任技術者

クルー略歴

認識コード：A-76-BS2.1

承認官：スティード、ベン F.

承認官のメモ：ナガタダツ士官は、プライバシーの公開を極端に避けているため、彼の人生に関する資料は非常に乏しい。これは、彼について細かく書かれた唯一の公文書といえるものである。2043年8月10日に発行された「アフリカ」の45頁目に掲載されたパーソナリティの章からの抜粋である。

ズルー族の投げ槍と、バエラーコンピュータシステムという時代錯綜的狀況のなかで、ネルソン・ナガタダツは、彼が「生活空間工学」と呼ぶ独特のマジックをあやつる。ムーンベースの生命維持ドームよりもパバイシャンダのバンガローにいるほうがはるかにくつろいでいる彼をみると、伝統保護にうち込んでいる人間が未来のための開発に重要な位置を占めていることに、なんとも言えない皮肉を感じる。しかし、ネルソン自身は、何ら矛盾はないと信じている。

「人生とは今現在でしかなく、何の因果関係もなく動いている点にすぎないと信じている人がいる。でもそれは本当だろうか」と言いながら彼はオレンジジュースを口に運んだ。「どんなメカニズムだって線の上を動かんだ。それ自身の必要性や個性によっていきいきとね、もし君が望むなら欲望によってもね。優秀なエンジニアは、その動きを見て理解し、機械がその目的を達成するよう手助けするものさ。」



マルショバ, カチャ A.

生年月日：2020年6月4日
住所：U.S.E. ルーマニア
ムンテニア州プロエステイ
年齢：25歳
身長：168cm
体重：69kg
性別：女
学歴：2041年 有機化学修了（セント・ペテルスブルグの芸術アカデミア）
2041年 身体芸術学修了（芸術アカデミア）
2043年 爆発科学修了（フンズ・アカデミア）
職務：UNFA 第2級戦闘指揮官
担当任務：宇宙船武器統括官、地上戦スペシャリスト

クルー略歴

認識コード：A76-BO3.6

承認官：スティード, ベン F.

以下のレポートは、カチャ・アニーナ・マルショバが統一火星派遣任務への参加を希望したとき、彼女を推薦した上官から提出されたものだ。彼女は、2044年8月14日に承認された。

「現在ユニス・プロジェクトへの配転を要求している将校は、慎ましやかな生活を送ってきました。私は、子ども時代からすばらしい女性へと成長していく彼女を見守ってきました。

子どもにしては印象的な彼女は、社交的で、親類には「じゃじゃ馬娘」として知られていました。ドイツ人とのハーフとして生まれた彼女はいつも両親を尊敬していましたが、その両親は彼女が10歳の時に殺されてしまいました。このため、セントペテルスブルグの芸術アカデミアで個別指導教官をしている兄のスタヴィが、彼女を育てました。

若いころの彼女は、体操教師になるんだと意気込んでいて、信じられないような夢さえ語っていました。鎖骨を粉々に砕かれてしまう事故が起こるまで、彼女はオリンピックチームに入ることを考えていたのです。

結局、もっと堅い研究をすることに気持ちを切り替え、化学の分野で頭角を現しました。ある人たちは、化学者として彼女が相当なものだったと思っています。そして、結局はわが軍に入り、立派な士官となったのです。私は、わが国に対する彼女の貢献を考えると、この配転を惜しまざるをえない気持ちになります。」

探査船の構造

宛先：UNFA探査船ユリシーズ キャプテン
発信：マリア・ブリードウェル：ムーンベース 主任エンジニア
内容：ユリシーズに積まれる探査機材など

この探査船の機構は、これまで類似タイプの建造経験がないため、常に流動的な状態にあります。キャプテンがドックに来られた際には、いつでも重要な改装ができるよう準備しておきます。

しかしながら、いくつかのものは、ほとんど手付かずになるでしょう。

キャプテン及びクルーが生活し任務を遂行する中心区域は、改造された地球製偵察機クラスのクルーザーとほぼ同じ構造です。中心部に地球製の装備を使用したので、非常に厳しい日程の中で任務をこなしていかなければならないエンジニアに課せられる数多くの探査船機能も、簡便な操作で処理できるようになりました。空調、食料調理関係、廃棄物再利用、寝台空間、筋力計量器の制御などはすべて標準的で、よく知られているものですから、維持・管理には全く問題がないでしょう。

我々は、ET製の宇宙船部品をブラックボックスとして使っています。エンジンやエネルギーシールドなどの制御入力舵は、大変よく標準化されているようです。ブラックボックスを探査船に「接続」するだけで、それがどのように動いているのかなど、詳細をあまり理解していなくても使用することができます。我々のテストによれば、このET装置は、二重安全装置もしくは自動維持装置を装備しているようです。これは、通常では決して故障しないと思われるので、修理の必要性は感じないでしょう。

もちろん、誰かが戦闘中にそれらを蒸発させてしまったら故障しないという保証はありません。我々は、通常レーザー光線や原子爆弾は使われないものだと祈っています。

キャプテンの指令席からは、メインのビュースクリーンやクルー全員の勤務配置など、ブリッジのすばらしい眺めが望めます。メインスクリーンは、飛行中に周囲の空間を監視するために使用できます。また、コンピュータが作成した戦術ビューシミュレーションも見せてくれます。これはとりわけ、対宇宙船戦闘を指揮するために重要なものです。さらに、地球外遠隔探知装置を使い、メインビュースクリーンで惑星地表にいるクルーたちを監視することも可能です。

そのほか、キャプテンの指令席からは、小さめのナビゲーションスクリーンが見えます。オリエンテーションコンピュータが、このスクリーンに現在の航行進路に最も近い目標恒星系を表示します。

定常的な操作のほとんどは、キャプテンの指揮に基づいてクルーが行います。しかし、キャプテン自身もクルーたちのオペレーションスクリーンの多くを監視できるし、クルーたちの肩越しにデータを読み取ることもできます。これで、戦闘のあいだ指令席から直接キャプテン自身が探査船をうまく操縦するといったことも可能です。

我々は、ご存知の理由で、搭載される超光速エンジンを使った飛行テストが行えないままここまで来ました。パイロットやエンジニアは、エイリアンの資料と私たちの地上テストから得た情報に関して集中的に説明を受けています。彼らは、命令に従って探査船を制御できるでしょう。現在のエンジンはまだまだ向上させることができます。ですから、計画のために宇宙に飛び立ったら、いつも油断なく注意を払い、探査船の機能を向上させることができるような材料を入手してください。

幸運を祈ります。神があなたにスピードを与えてくれますように。



物資及び武器

宛先：UNFA探査船ユリシース 全搭乗員

発信：グエン・ストラウド大尉：ムーンベース兵站業務主任

内容：可能な装備、物資、小型武器、及び兵器

私は、ポーク基地司令官から、貯蔵されている装備や物資の全てを遠征で使えるよう整えることを指示されました。以下の品目が特に役に立つはずです。すべての品目について、数量が限られていることを覚えておいてください。しかし、いくつかの品目については、材料が入手できるならば、在庫を補うだけでなく増大させるための生産工場を確保しています。

■ 9mm口径自動拳銃用弾薬

管理番号：j58-8776-777p mod3,29-1-42

在庫数量：36発入109箱/計3924発

備考：被覆されていない核分裂性アイソトープの含有量が低いウランで標準的発射速度。

製造材料は大量にある。

■ ウイルス性感染剤発射システム用弾薬

管理番号：v43-8276-465k 1-1-45

在庫数量：4発入10箱/計40発分

備考：広範囲ウイルス性感染剤V-2を使用。相手を死亡させるか無力にすることはできるが速効性はない。この薬品は、ターゲットに注入後すぐに生理緩慢剤となる。

できれば冷蔵保存のこと、室温での保存寿命は6ヶ月。

製造材料は限られている。

■ 各人の身体防護具

管理番号：A87-8462-681m 25(sm) 26(me) 27(lg) 28(xl)

在庫数量：必要に応じて製造可能

備考：チタンメッシュ強化のケブラー^{*})とナイロンカバーを在庫している。低速度の柔らかい金属発射物、榴散弾、鋭利な武器、衝撃に対する防護力は大きい。

高速度の固い金属発射物に対する防護力は限定される。

^{*}) ナイロンより軽く、鋼鉄の5倍の強度をもつ合成繊維

■熱タイプの氷掘削装置

管理番号：G-65-5844-611dx

在庫数量：1

備考：氷を掘削するためにシャベルの刃が高温になり震動する。
手近な材料では製造困難

■マッチタイプの個人用焼夷／照明装置

管理番号：J56-2675-747q

在庫数量：100個入500箱／計50,000個

備考：「どこでも擦れる」タイプのマッチで貯蔵及び使用には要注意

■たいまつタイプの個人用焼夷／照明装置

管理番号：M67-1112-4522

在庫数量：100

備考：空中酸素濃度30%～65%で焼夷弾及び照明弾として使用可能。
製造材料は十分ある。

■火炎放射タイプの個人用小型武器

管理番号：M45-5161-523y

在庫数量：12

備考：酸素濃度が高い場所での使用は要注意。
製造材料はある。

■個人用医療キット

管理番号：B45-1356-152j

在庫数量：314

備考：自分自身やメンバーの治療のために、各個人が常に所持していること。能力は限られているが、かなり高度な自動診断が可能。
製造や補充のための材料は十分ある。

■個人用呼吸ろ過マスク

管理番号：D56-3132-662z

在庫数量：628

備考：既知の有毒ガスや衰弱性の煙や霧などから完璧に保護する。
《警告》この装置は酸素は供給せずフィルターとしてのみ機能。
製造材料は十分ある。

■標準的なツルハシ

管理番号：WS8-5611-115a

在庫数量：4

備考：多目的掘削道具であるとともに至近距離武器でもある。
製造材料は限られている。

■9mm口径自動拳銃

形式：1997年式将校用マークV

管理番号：F45-4651-511d

在庫数量：18

備考：腰ベルトに着装する将校用の武器で到達距離は限られている。
12連続装弾クリップを使用。
製造材料は限られている。

■ウイルス性感染剤発射システム拳銃

管理番号：A25-5841-455x

在庫数量：1

備考：広範囲に効力があるウイルス薬品V-2を発射する携帯武器。
二酸化炭素推進で発射される。
8連続装弾クリップを使用。この武器は射程距離が限られている。
製造材料の量は非常に限られている。

■ナイロン/ケブラー製カーンマントレルタイプの登はん用ロープ (11mm径)

管理番号：B15-1222-112f

在庫数量：必要に応じて製造可能

備考：静止負荷容量 40,000ニュートン

衝撃負荷容量 122,000ニュートン

伸長率 11%

一度でも最大衝撃が加わるか、その半分の衝撃が3回加わったりしたか、外側がすり減った場合は放棄すること。

製造材料は大量にある。

■個人用環境適応スーツ

管理番号：SEP-1244-258 Mark XXVII mod2

在庫数量：314

備考：国連標準サイズでG-Mにフィット

低圧力や高真空状態から着用者を保護する。

2,500hPaまでの呼吸不能大気状態のなかで着用者を保護する。

快適温度範囲：80°K～390°K

生存可能温度範囲：60°K～450°K

セミハード構造で、着用者を衝撃や投射物による怪我から保護するが、その能力には限界がある。

《警告》高レベルで貫通する電離放射に対する保護は考えられていない。

限られた製造に必要なだけの材料はある。

■物資及び武器(補足)

宛先：グエン・ストラウド大尉

発信：モーメンド・ガンクル少佐：

ムーンベース援助科学及びエンジニアリング部門主任

内容：エイリアンの装備及び将来に向けての装備拡充

君のレポートを見て、将来クルーの役に立たせるために、現在進行中のプロジェクトを簡単にリストアップすべきだと感じた。むろん、ほとんどのプロジェクトがうまく達成できるかどうかは、宇宙へ出かける彼らがどんな資源を供給できるかにかかっているのだが。

我々は、彼らにスキャナの説明をしておくべきだろう。というのは、スキャナを使う機会がかなり多いと思われるからだ。私は、このメモのコピーをユリシーズのキャプテンにも送っておく。

■スキャナ

今回の任務に必要な、少なくとも役には立つと思われる、このエイリアンの装備は、ETSの残骸から回収されたものである。標準記号論理認識ユニット(S.S.C.L.U.)として知られている装置は、特に慣れ親しんでおいたほうがいいだろう。

研究所では、これを簡略的に「スキャナ」と呼んでいる。このユニットは、会話や文書を訳すために、高集積の言語データベースと特殊なAI技術を使っているようだ。このスキャナは、新しい言語を学習しデータに加えることができる。ここ数週間、我々は、このユニットに英語を教えた。さらに、あなたがたが任務の過程で出会いそうな言語もすべてプログラム化した。スキャナには、音声もしくは組み込み光学スキャナを通じてインプットできる。この装置は、ETSで発見された文書を訳すのにも大変役立った。

また、「スキャナ」装置には、移動や放射能を補足したり、あまり知られていない化学物質を分析するためにセンサーの働きをする小さな格子アンテナがついている。我々は未だすべての機能を使いこなせてはいないが、近くに基本的な物質があったり、まわりの大気が人間にとって有害な状態になっているときは、スキャナが教えてくれるはずだ。さらに、我々がまだ確認できていない機能もあるはずだ。

■装備の拡充

我々が開発中のアイテムリストも知っておいてくれ。残念ながら、現段階では、まだ提供できるものではないが。

強襲用自動武器

高速連射（1分間に600発）と高速度（秒速900m）で8mm拡張弾を発射する。はね返り防止システムにより、握っていれば発射することができる。

破砕性手榴弾

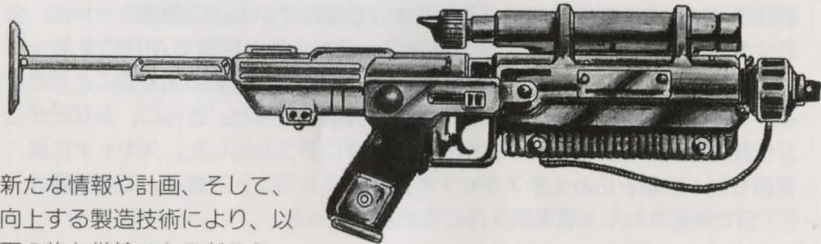
まず猛爆発の地点から放射状に飛び出る高速金属破片により、さらに続く猛爆発の激震により損害を与えることができる。

強襲用レーザーライフル

この武器から発射されるビームは熱運動の衝撃で損害を与える。目標物の表面を、高熱ガスに変えながら蒸発させる。このガス拡散から生じる激震衝撃で他の目標物にも損害を与える。正確度は、照準装置と使用者の技能によって決まる。この武器の効果は、霧や埃っぽい状態、さらに目標物の表面が反射するようなものとき極度に失われる。

強襲用半自動ライフル

18挿弾子から5mmの超高速拡張弾を発射する。



新たな情報や計画、そして、向上する製造技術により、以下の物も供給できるだろう。

強襲用重レーザー武器

この武器の照準装置は、標準的な強襲用レーザーライフルのものほど簡単ではないが、ビームはかなりの打撃を与えることができるものである。

高速度増加型拳銃

この武器のカートリッジには1997年型マークVの9mmと同じ弾を使うが、超高速粉末弾薬と補助装薬のための第2発射薬室が装備されている。この弾は、銃口から発射されたときのおよそ4倍の運動エネルギーを持つ。

運動質量シールド

これは、純粋にエイリアンによって設計されたものである。ETSの資料からヒントを得たものだ。パワー（？）およびコントロール（？）もしくはそのいずれかのボックスがついたベルトのようなものだ。みかけの強力質量スクリーンで着用者を覆って効力を発揮する。運動エネルギー武器に対しては非常によく機能するが、ビーム武器に対してはあまり期待できない。

質量銃

これもまた、エイリアンによって設計されたものである。なんとかわかったことは、この武器が、球状発射物を推進するために減衰した磁場や電場もしくはそのいずれかを生成するという点である。化学物質推進発射物と比較した射程距離、正確性、初速度、効率性、効果などは不明。

有腐敗性ガス発射装置

これは、缶状の有腐敗性ガスの発射装置である。機能の詳細決定は遅れるだろう。実際の製造や試験も未定。

反射型防護服

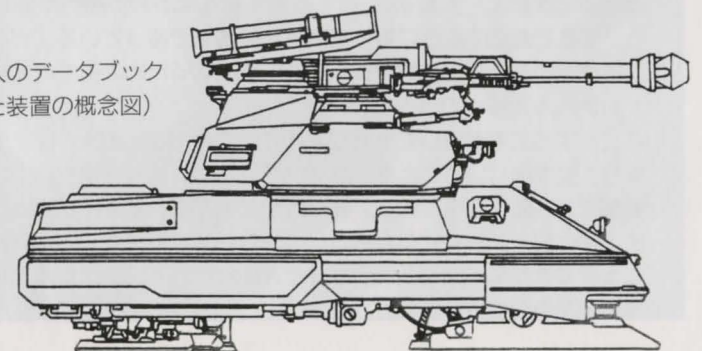
ビーム武器に対して非常に有効な鏡面式身体防護具である。しかし、他の攻撃に対しては効果が落ちる。

外傷キット

エイリアンの医療技術とその用具や方法にヒントを得て、我々は、個人用救急セットの能力を、現行のものよりさらに深刻な症状に対してまで効果的に処置できるよう向上させることができるはずだ。

以上に示した概略は、我々に銀河系宇宙の技術が開示されることで広がる可能性からみれば、ほんのさわりにすぎないことを承知しておいてくれ。

（右図：異星人のデータブックから見つかった装置の概念図）



宇宙航行要項

宛先：UNFA探査船ユリシーズ キャプテン及びクルー

発信：カーティス・ウェイド退役将軍：ムーンベース副司令官

内容：探査船の宇宙航行に関する指示

このような悲惨な時期だが、私は、君たち全員をうらやましく思っている。このような状況ではあるが、君たちは歴史を作っているのだ。宇宙的観点からいえば、母なる地球の子としてその裏庭から旅立つ最初の者であり、君たちの名前は、人間の魂が生き続ける限り、アームトロング、コリンズ、アルドリン、メッセーそしてポーらとともに光り輝くことだろう。我々は全員、君たちを100%支持している。



さて、きびしい現実に戻るとしよう。

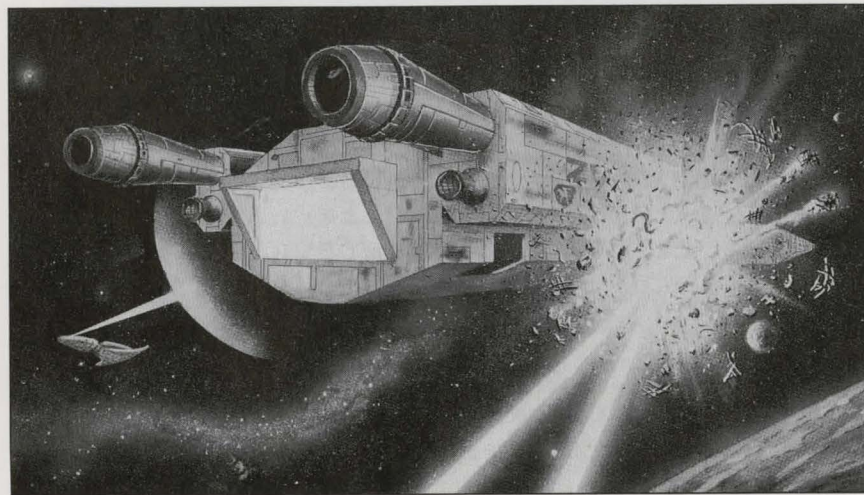
君たちが飛行を続ける探査船は、雑多な混成物であることを別にしても、我々がかつて飛ばしてきたものよりずっと複雑なものである。君たちは、(借りものであるとはいえ)人類初のFTL駆動装置をはじめ、強力な防御・攻撃装備から、まるで魔法のように動く遠隔検出装置まで持っている。さらには、それらやその他のことも、少数のクルーで取り扱えるための高度なオートメーションシステムさえ持っている。

これらすべてを考慮したうえであえて言うのだが、君たちは、太陽系外ではいまだ乳児段階にいることを忘れて欲しくない。銀河系宇宙には思考力を持った老獪で力を誇る種族がいる。我々が、彼らの優れた成果に追いつくためには、まだあと何千年も要するだろう。つまり、もし我々がこの離れ技をやりとげることができたら、銀河系宇宙は我々人類にとって、巨大な運動場とたくさんの教室のある学校になるのだ。

ETSの資料によれば、君たちは、深い宇宙のなかでいろんなものに出会うことができるようだ。そこには、君たちの友人となって交易を行なう宇宙船もいれば、単なる意地悪で攻撃をしかけてくる宇宙船もいる。また、君たちの存在自体を無視する宇宙船もいるだろう。宇宙空間を浮き漂っている難破船やガラクタもみつけるだろう。この渦巻き世界のどこかには平和を保つためのパトロール隊さえいることだろう。

もしも我々が、強力なパワーを持ちながらも良識を持ち合わせていないとすれば、視界に入るものすべてを爆破してしまうという単純な戦略が、最も簡単で安全なものといえるかもしれない。しかし、これはコンピュータゲームではなく現実なのだ。万が一、君たちがこのような行動をとれば、間違いなく銀河系特殊攻撃隊がやって来て、君たちをあっさりと片付けてしまうだろう。とはいえ、行く手には空腹を抱えた鮫たちもうろついている。彼らは、反戦論者と云ったところで、容赦なく飲み込んでしまうだろう。

君たちに与える戦術的アドバイスは、相手の出方に即座に対応しろということだ。最初に出会ったときは、疑わしい点も好意的に解釈してやることだ。むしろ、臨戦体制を敷き武器を準備してだが……。そしてまた、相手が友好関係を望むときのためにも備えておくものだ。しかし、これが、いつでも最善の作戦というわけではない。いつでもうまくいくというものなんかないのだ。しかし、何とんでも君たちは最強のメンバーだ。君たちが、判断力を駆使して最善を尽してくれるものと信じている。



ET接触要項

宛先：UNFA探査船ユリシーズ キャプテン

発信：メイソン・R・ポーク：ムーンベース司令官

内容：惑星探査及びエイリアンとの接触

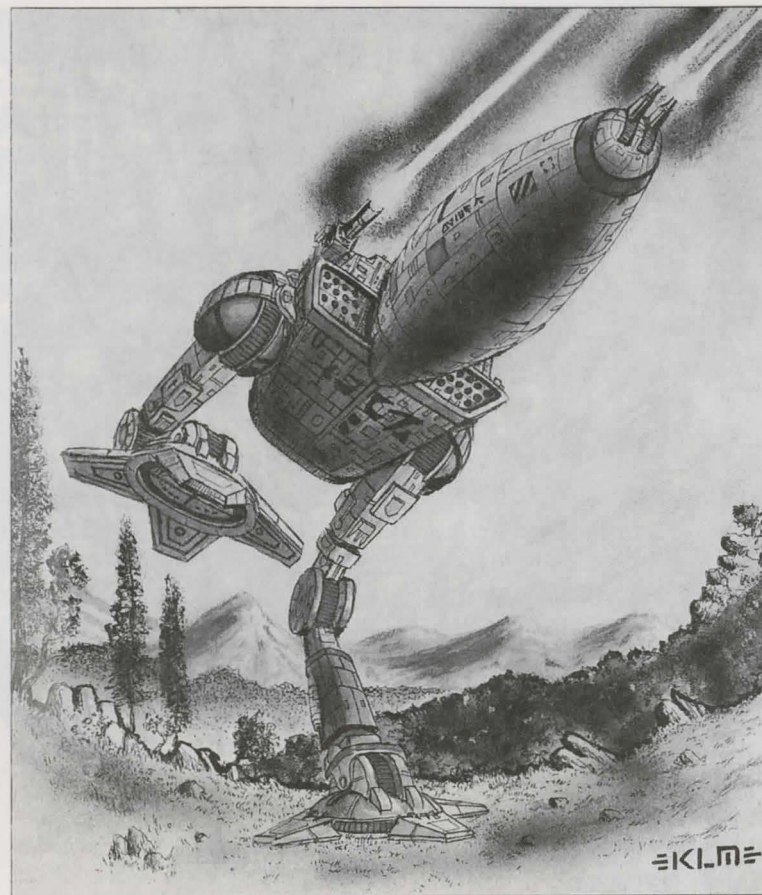
ユリシーズのキャプテンとして、指揮下にある者の安全を確保し、任務を成功へと導くのは当然の責務である。

任務の性質とそれに伴う重い責務からいって、君は、ムーンベースに戻るまで自分が探査船から離れてはいけないということをわかっているだろう。これは、惑星の地表で何が起ころうとも、探査船とその荷を持ち帰れるよう、いつも誰かは探査船に乗っていなければならないからだ。さらに、同じ理由で、君自身が惑星上に着陸して探査船を危険にさらしてしまうことも禁止されている。幸いにも、我々は、君たちが様々な任務の過程で起こる戦いによってもたらされる困難からまぬがれるためのエイリアン技術を入手している。

第一の新技术は、物質ビーム転送だ。まだよく理解はされていないが、テストによって使用可能であることがわかった。転送距離に限界はあるが、軌道上から物質（生きた人間を含む）を惑星地表に移動させ、それをまた戻すことができる。

エイリアンの資料に関する調査から、惑星間交易を行っている有生物惑星のほとんどが、遠隔物質転送装置で探知し自動追跡できる標識を掲げた「ビームダウン」基地を設置しているものと確信できる。

惑星地表に降り立ったならば、君もクルーたちも、「常識的なものは何もない」ということを肝に銘じていてほしい。人類は、これまでこのような経験をしたことがないのだ。最初に出会う二つの異なった異星文明は、おそらく人間のようなものではないだろう。君たちが出会うエイリアンの人々は、私たちと通じ合えるかも知れない。しかし、何か致命的なことをされるかも知れないと予め思っておきたまえ。用心するのだ。彼らに警戒心を引き起こさせないようにするのだ。任務を果たすために必要ならば、話かけること。だが問題は引き起こさないように。



幸運にも、第二のET技術が、それほど難しくなくコミュニケーションをとれるようにするだろう。

君たちがこの数週間ずっと使って慣れてきたスキャナー^{*}を、時間をかけて復習してくれたまえ。

^{*} 電子秘書補足：S.S.C.L.U.の操作機能説明に関しては、P. 21のガンクル少佐によるレポートを参照のこと。

君たちは、最低でもそこで使われている言葉はわかるし、相手も君たちの言葉を理解できるだろう。しかし、話された言葉の文化的背景を誤訳しないよう気をつけてくれ。もしも、エイリアンから昼食をともにしたいという誘いを受けたら、受ける前に二度は考えること。

任務遂行を可能にする第三の技術は、実のところ、人間とETの科学を合わせたものである。キャプテンとして、クルーたちのすべての動きを追跡しメインスクリーンに映し出す能力を持つ使い捨ての通信監視機器が使えるだろう。これを使えば、君は、クルーたちが惑星地表を探索している時、まるで約20M上空でホバリングしているかのようになれるだろう。これで、クルーたちが最善の行動をとるようアドバイスできる有利な位置にしながら、クルーたちと常に音声コミュニケーションできるようになる。

君たちが達成しようとしている任務を倫理的にどう評価するかは複雑だ。地球と人類を救うこと、これは、少なくとも人間という立場から見れば、最重要の避けられない倫理といえるのだ。

「ケンタウルスドライブ」の部品を回収するために必要であれば、何でもしたまえ。しかし、「黄金律」**）は全宇宙共通の真理であり、君が任務をまっとうできるかどうかは、武力ではなく誠実さにかかっていると、我々の多くは感じている。いつ戦うのかという疑問に突き当たったときは、「強気だが公平な」交渉作戦か、ウェイド将軍が言ったように「やられたらやりかえす」戦法を試みるようアドバイスする。この戦略は、惑星地表でも宇宙船との遭遇でも効果的だろう。しかし、相手が攻撃的ならば、直ちに決定的な行動をおこななければならない。

**）黄金律：Golden Rule
聖書の教訓。俗には'Do as you would be done by'
「おれの欲するところを人に施せ」と簡約される。



調査報告

宛先：UNFA探査船ユリシーズ キャプテン

発信：ナガラジャ・キルマキ少佐：ムーンベース内警備担当

内容：ETデータベース分析結果 別名「宇宙の噂」

「あの出来事」の性質のため、ETSの資料すべてが、程度の差はあれ損傷を受けている。見つけた情報の断片を相互に関連づけることで、ある程度の情報分析を行うことができた。我々の科学分析から確かになったことは、ケンタウルスドライブを組み立て直すためには、8個のまったく異なる部品を探しあてて必要があるということだ。

以下の報告書は、放棄されたETSで見つかったあらゆる種類のすべての資料をやりくりしながら準備されたものである。ほとんど時間がなく、出された結論を確認するための別の情報源もないため、この報告書の内容を、自信を持って保証することはできない。

我々が取り組んできたエイリアンの参考資料の一部は、明らかにフィクションだ。そのほかの部分も、おそらくそうだろうと判断された。この作業は、「風と共に去りぬ」を読んでアメリカ合衆国の19世紀市民戦争の歴史を学ぶといったことと同じくらいには役に立った。しかし、我々が何を頼りに作業を行ってきたかというもっとわかりやすいとえをあげるとすれば、「世界の戦争」で描かれた方法で、イギリスの後期ビクトリア朝時代を理解しようとするようになるのかも知れない。この点で、エイリアンの情報をもとに、これくらい正確なシナリオが作れたという確信をもつ方法がないのだ。

フィクションに加えて、宇宙の様々な領域や惑星に関する不完全な図表や運航資料があった。百科事典に載っているかも知れない程度のごちゃごちゃした情報さえある。しかも、それらは、不明な点を埋めてくれる一方で、その断片的な性格のため、得られる答よりももっと多くの疑問を引き起こすのだ。

疑問点はいくつかあるものの、君が、再度この報告書に目を通すことを要請する。私が今できることは、それが少なくとも君にとって助けとなるよう祈ることだけだ。

第一に、銀河系マップを確認すること。ETはFTL駆動装置を持っているが、それとて無限に速い駆動装置ではない。銀河系文明は、その範囲が数十から数千の星に及ぶようだ。これは我々の銀河系に存在する星の何十億分の一に過ぎない。宇宙では、多くの恒星間文明が互いにオーバーラップしている。このため、ある書物があるとすれば、同時にいくつかの文明勢力範囲に存在しているかもしれない。また、宇宙のある地点では、いくつかのタイプの宇宙船に同時に出会うかもしれない。運航目的に応じて、宇宙を領域に分けるための宇宙内会議もあるようだ。文明の境界は、領域で区切られているかも知れないし、そうではないかも知れない。この点をはっきりしていないのだ。領域境界が交差しているところには税関バリアのようなものがあるかも知れないので、1回につき1地域の介入のみに限定するよう忠告する。

太陽と地球は偶然にも、少なくとも異なる8つの領域が収束する場所にとても近いところに位置している。我々は、それらの領域のそれぞれがどのような状況なのか、ざっとまとめた。それについては、この報告書でのちほど掲載する。(この収束の重要性については、現時点ではわからない。しかし、地球がある種の「接触禁止状態」にあるのかもしれないと信じられる根拠はある。ETSのデータバンクに保存されていたデータの断片は、実験のために太陽系に突入する許可を得なければならなかったことを示している。残念ながら、その根拠は、許可を得なければならぬ相手が誰なのかと同じくわからない。)

悲しいことに、我々が長く保持し続けてきた異星人学理論が誤りであったことを報告しなければならない。進歩した文明は、必ずしも平和的とは言えないのだ。ある者は平和的だし、ある者はそうではない。また、ある時やある特定の者に対してだけ平和的な者もいる。我々が忠告できることは、宇宙だろうが惑星地表だろうが、いつも防御を固め、いつでも防衛や退却できるよう準備しておくようにということだ。

一方明るい話は、貿易が盛んなようで商売に励む様々な種族の交易人がたくさんいるということだ。だから、おそらく君たちが訪れる惑星の多くで目立ってしまうということはないだろう。君たちは、我々が必要とする品物の多くを交易で手に入れられるかも知れない。我々は、もしあるのなら何が銀河系の標準的通貨なのか、どんな交易品が好まれているのかなどは把握できなかった。君の判断力で試してみたまえ。

ここに、8つの領域名と、そこで見いだすかもしれない状況をあげておく。

■**コルネフォロス領域**・・・この領域では、鉱業が重要な経済活動になっているようだ。生産高も急上昇している。いくつかの植民地では通信設備の悪さが問題となっているようだ。

■**イザー領域**・・・・・・・・・・・・この領域では、強権的な政府、ギャング、特定個人が勢力を誇っており、恐怖政治に拠って権力と影響力を行使している。ここを支配しているのが誰であれ、地球の「接触禁止状態」に関わっていることが大いにありうる。

■**カロリ領域**・・・・・・・・・・・・データによると、人口もまだ乏しくかなり未開の領域のようだ。ETSの記録には動物園の惑星だと記されている。

■**アルジーバ領域**・・・・・・・・・・・・この領域とは関係があったので、いくつかの映像が我々のデータバンクにも記録されている。かなり人口も多く、暴力的地域として知られている。

■**アルヘナ領域**・・・・・・・・・・・・この領域に存在する恒星系の大半は、名前の代わりにカタログ番号が与えられている。ということは、おそらく未開発地域を意味していると思われる。

■**ゾウラク領域**・・・・・・・・・・・・実際のところ、この領域については何もわかっていない。

■**アンカク領域**・・・・・・・・・・・・宇宙のなかでも非常に人口が過密な領域。技術レベルはとてバラツキがある。この領域は、マップの境界の向う側を支配する巨大政府が伸張してきた場所ではないかと推測される。

■**アルナスル領域**・・・・・・・・・・・・8つの領域のなかでは、この領域の住人が最も進んだ技術を持っているようだ。しかし、我々がケンタウルスドライブを再製造するのに必要な部品を、全て与えてくれるかどうかは疑問だ。ETSの記録には、最近この地域で起こった動乱が記されている。

最後に、我々はあまり自信があるとはいえないがひとつの情報を手に入れた。

「あの出来事」は、どうやら事故ではなかったようだ。

ある個人もしくは集団が、実験者が使用しようとしていた実験装置を故意に破壊してしまったらしい。ETSのブラックボックスから、いくつかの疑わしい声明を発見した。それは、暗号化通信チャンネルで秘密の声明がなされたことを示している。我々には、エイリアンの文書を訳すことはできても、彼らの暗号コードのキーを解くことはできない。この交信のなかで幾度となく繰り返されており、何か意味があるらしいひとつのフレーズを発見した。

「・・・・・・・・イブレミ・・・・・・・・」



U.N.F.A.

ユーザー登録のお願い

本ソフトに添付されている、「ユーザー登録はがき」に必要事項をご記入の上、弊社までご返送ください。本ソフトのユーザーとして、登録させていただきます。以前にも弊社製品をお買い上げ頂き、すでにユーザー登録されている場合も、お手数ですが製品ごとにユーザー登録をお願いします。ユーザーサポートのサービスは、このユーザー登録をもとに、行なわせていただきます。

登録ユーザーの方は、専用のユーザーサポート電話をご利用いただけます。ご不明な点など、お気軽にお問い合わせください。ただし、ゲームのヒントや解法に関するものは、お断りしていますのでご了承ください。

ユーザーサポート ☎(03)3492-1079
(土日、祭日を除く 13:00~17:00)

- 本マニュアル及び本プログラム（以下、本システムという）の著作権は弊社にあります。
- 本システムの一部または全部を無断で複製及び転載することは禁じられています。
- 本システムの内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本システムの使用による影響については、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

ブラネッツ・エッジ 日本語版 U.N.F.A.コンタクト・マニュアル

初版発行 1993年9月
編集 ビング株式会社

(東京オフィス)
〒141 東京都品川区西五反田8-2-10-704
TEL (03) 3492-1079(ユーザーサポート)

Copyright ©1993 by VING CO.,LTD.

乱丁・落丁はお取り替えます。



VING

ピング株式会社(東京オフィス)
〒141 東京都品川区西五反田8-2-10-704